大津波 街のみ込む

変わり果てた漁港

「何もかも流された」

【洋野町】11日発生した東北・関東大地震で、洋野町種市の種市漁港には、午後3時35分ごろ、大きな第1波が押し寄せた。町役場種市庁舎付近の高台には住民約30人が集まり、漁港全体が大波にあっという間にのまれるのを不安げに見つめた。変わり果てた漁港の光景にぼうぜんと立ち尽くした。

午後3時20分ごろ、種市漁港付近はウニを養殖する増殖溝の溝がはっきり確認できるほど波が引いた。遠い南の沖に白い高波が押し寄せると「来たぞー」「あー」という叫び声が辺りに響き、間もなく白波が高さ5㍍ほどの防波堤を越えて漁港一帯を埋めた。

30隻ほどの漁船や、作業小屋がごう音とともに一気に流され、長さ約50㍍の堤防は砕かれ、コンクリートの塊が付近に転がった。

見ていた住民は「（津波が来た時は）漁港の灯台と海浜公園の松の木だけが見えた。何もかもが流された」と声を落とした。

その後、漁港の底が確認できるほどの引き潮があり、午後4時ごろ、さらに大きな第2波が来た。「信じられない」という声が聞こえ、第2波が引いた後には防波堤に船や車が引っ掛かっているのが見えた。

町役場種市庁舎で見ていた水上信宏町長は「県栽培漁業センターで栽培している稚ウニも全て流されてしまった。人的被害がなければいいが」と表情を曇らせた。

釜石駅前や県道水没

【釜石市】釜石駅前はすっかり水没した。中心地ではガスボンベが爆発するような音が聞こえ、大渡町では火の手が上がっているのが見えた。沿岸広域振興局によると、両石、鵜住居地区はかなり浸水している。

県道釜石―遠野線は鵜住居地区に入れないほど水没している。

県立釜石病院（6階建て）では入院患者約200人を1、2階の外来待合室にマットを敷いて患者を移した。

午後7時現在、救急搬送は14人。

地元の消防団員、中妻町の渡辺誠さん（52）によると、午後6時までに津波を6波確認した。第1波と第2波、第4波が非常に大きかった。中妻町の大渡川の堤防ぎりぎりまで押し寄せた。

渡辺さんは「初めは軽い揺れだったが、その後直下型のようにしばらく長い揺れが続いた。10分ぐらい揺れているように感じた。これまでの人生で経験したことのない揺れだった」と話した。

釜石市で流される車＝11日（NHKニュースより）

信号動かず交通まひ

水道管が破裂、断水も

【盛岡市】盛岡市では停電のため市内の信号が機能せず交通がまひ状態となった。市中心部ではビルのガラスが割れ、青山3丁目の道路では水道管が破裂、公共施設の破損も相次いだ。

市は、JR盛岡駅で降車した観光客150人の避難場所として市民文化ホールを開放した。いわて県民情報交流センター（アイーナ）では高層階にいた利用者が非常階段を使って避難。県立図書館では書架から落ちた多くの本が散乱した。

菜園1丁目のコンビニエンスストアでは、水や食料、カセット式コンロなどを買い込む客らで行列ができた。放課後の部活動が打ち切りとなった盛岡市立高では、携帯電話が通じず校門前で立ち尽くす生徒であふれた。

地震時にアイーナにいた盛岡市中堤町の会社員駿河誠子さん（43）は「多くの人がいたから耐えられたが、一人だったらたまらなかったと思う」と声を振るわせた。

東松園4丁目など4767世帯が断水している。

小学校や公民館などに避難している市民は午後8時半現在、600人を超えている。

雫石町では、町営体育館アリーナの電球が落下するなどした。

大きな津波が久慈港を襲い、海岸を心配そうに見つめる久慈市湊町の住民ら＝11日午後3時40分ごろ、久慈市湊町

安否確認に災害用伝言板

携帯電話各社 他社でも利用可能

11日発生した東北・関東大地震で、被災地を中心に、携帯電話がつながりにくい状態が続くとみられる。家族や友人の安否確認に、携帯電話各社が運用する「災害用伝言板」が利用できる。

「iモード」（NTTドコモ）「EZweb」（KDDI＝au）「Yahoo!ケータイ」（ソフトバンクモバイル）などのインターネット接続サービスのトップページに設けられる「災害用伝言板」という表示を選択すると、伝言板のページにつながる。

自分の安否の登録（被災地域からのみ）は、「登録」「確認」「削除」のうち「登録」を選び、登録のページに移動。次に現在の状態を選択する。NTTドコモの場合は「無事です」「被害があります」「自宅に居ます」「避難所に居ます」―の四つのうち一つを選ぶ。コメント欄に100文字以内でメッセージを残すこともできる。

家族や友人の安否確認は全国から可能。同じくトップページから災害伝言板にアクセスし「確認」を選択。安否を知りたい人の携帯電話番号を入力し「検索」ボタンを押すと、登録した人の携帯番号と登録日時が表示され、これを選択すると登録情報を確認できる。

確認はパソコンや他社携帯からも可能。パソコンから安否確認する場合は、各社のホームページから。

ブレーカー切り避難を

消防庁などが呼び掛け

東北・関東大地震で総務省消防庁や電力会社は11日、住居などから避難する際は、火災発生防止のためブレーカーや電気製品の電源を切るよう呼び掛けた。

東京電力の担当者によると、アイロンや電気ストーブのように熱を発する電気機器のスイッチを入れたままにすると、電気の復旧時に通電して周囲の物から発火し、火災につながる場合も考えられる。「熱を発する機器類は、コンセントも抜いておくとさらに安全だ」という。

漏電遮断器を備えている場合、屋内で漏電が発生した場合はブレーカーのようにスイッチが下りるような仕組みになっているという。担当者は「状況にもよるが、遮断器が作動した場合は電気工事業者に連絡して点検を受けた方がよい」と話している。

この紙面の著作権は岩手日報社が保持しています。無断転載、複製及び配布は禁止します。